

『小学校』

1 研究主題

「ともに学び合い、高め合う児童生徒の育成を図る体育学習」
－教師と児童が安心して行うことのできる体育の授業を考える－

2 はじめに

近年、新任や少経験者の教師などが増えてきた。また、体育の免許を持っていない教師も多くいる。その結果、体育の授業を進めるにあたり安全面への不安や、指導内容のアイデアなどが課題となっている。体育の授業を、安全に、効率的、効果的に行えるような授業のアイデアを共有し、実践することで、少しでも体育好きの児童が増えるような授業が展開できるのではないかと考えた。

3 研究経過

昨年度から、授業の導入部や授業の実践方法について研究を進めてきた。今年度は「球技」「陸上競技」「器械運動」の三つの部会に分かれて、それぞれ指導法の工夫を話し合っまとめ、動画や写真を撮影して、資料作成を進めた。

4 研究の概要

三つの部会で作成した、安全かつ全ての児童が楽しみながら授業に参加できる授業内容の資料を、市内全ての教師がロイロノートの資料箱を通して共有して活用できるようにした。

(1) 器械運動

ア 跳び箱やマットの安全な設置方法の確認

→セーフティーマット、サイドのマット、距離調節器

イ マット運動

→効果的な準備運動や補強運動、技の動きづくり

→技の手本動画の作成

ウ 跳び箱運動

→技の練習動画、手本動画の作成

(2) 球技

ア ベースボール型

→Tボール（キックベースボール）の授業デザイン

→練習の場を写真で紹介

→ゲームの進行の様子を動画で紹介

イ ネット型

- プレルボールの授業デザイン
- 柔軟なルール設定の例示や練習の場の紹介

ウ ゴール型

- (ア) バスケットボールの授業デザイン
 - ルールの工夫（ゴールに入れなくても得点できる）
- (イ) サッカーの授業デザイン
 - たまごわりサッカー（攻め方と守り方の工夫）
 - 3対3のミニゲーム

(3) 陸上競技

ア 走り高とび

- 練習の場、教材の工夫や、練習ドリルの紹介

イ ハードル走

- ミニハードルやカラーコーンを使った練習の紹介

★ロイロノート資料箱→愛知県小牧市先生のみ→02_事例共有→01_小学校
→00_共通→体育教研

5 今後の課題

今後は、資料箱の存在を広く周知し活用を呼びかけていく。体育の指導案や学習カードなども随時追加していき、市内の先生方に授業実践の動画や写真などもどんどん入れていくことも呼びかけていく。このようにして、ロイロノートの資料箱をさらに充実させ活用しながら、より効果的な指導へとつなげていく。

『中学校』

1 研究主題

「ともに学び合い、高め合う児童生徒の育成を図る体育学習」
—仲間との関わりのなかで、自ら課題解決に向けた取り組みができる生徒の育成—

2 はじめに

生徒の実態に合わせて自らの課題を発見し、その課題解決に向かえるような手立てを考えることで、生徒が主体的に活動することができるだろう。そのために、生徒自身が参加しやすい場を設定することや学習カードの工夫、近年導入された ICT 機器などを活用しながら、仲間と関わり合い、誰もが楽しく参加できるような授業展開を考え、実践・研究を進めていこうと考えた。

3 研究経過

昨年度検討したことを元に、各校で実践を行った。単元の始め・途中・終わりとアンケートをとり、生徒の変容も把握できるよう共有した。また、実施状況を共有し、指導力向上に努めた。

4 研究の概要

(1) 活動場所の設定

各自の運動技能向上のねらいに合わせた活動場所の設定をすることで、同じねらいをもった生徒同士が協力をし合い、課題解決に向けて意欲的に活動するだろう。

- ・チームの課題に合った練習内容を考えさせる。
- ・簡略化したルールにする。
- ・自己の課題に応じた活動場所を選べるようにする。
- ・ネットの高さやコートの大きさなどを複数用意する。

(2) ICT 機器の活用

ICT 機器を活用することで、自分と仲間の動きを比較することや、自分の動きを客観的に見るきっかけになり、仲間との動きの違いを発見したり、そこから自分やチームの動きをふりかえったりして、仲間と学び合いながら課題解決に向けた取り組みができるだろう。

- ・思考を瞬時に可視化するために動画撮影をする。
- ・ロイロノートで作戦ボードを作成する。

(3) ふりかえりの工夫

ふりかえりに、チームやペアなどの相手に目を向ける観点を作成することで、自然と周りに意識が向くようになり、アドバイスや声かけが増え、仲間との関わりから自らの課題解決に向けた取り組みにつながるだろう。

- ・ホワイトボードを使用して、チームの課題を全体に共有する。
- ・課題解決に向けて、どのような方法が有効だったか考えさせる。
- ・仲間とのアドバイスから考えたことや変容を言語化する。

上記に挙げた3つの手立ての中から各校が実践できるものを取り上げ、生徒の実態に応じて更に具体的な手立てを考えて実践を行った。

5 今後の課題

今回の研究で課題となったことや現場の困りごとの共有、外部から講師を招き、現代に求められている学校体育の教育のあり方などを整理していく。また、生徒の体力向上に向けて、年間を通じて計画的に指導をできるように検討をしていく。